

# 2015年度香港JIP報告書（中国）

外国語学科外国語専攻3年 新川美幸

研修先：香港城市大学専上学院

期間：2016年2月21日（日）～2016年3月19日（土）

実習時間：5時間（50分×6コマ）

授業見学：25時間（50分×30コマ）

一部負担金：5万円（宿泊費、航空券、海外保険料の合計と助成金との差額）

費用：6万円（食費と現地の交通費のみ。お土産代、観光費用などは除く。）

使用テキスト：大家的日本語（初級Ⅰ、Ⅱ 進階Ⅰ、Ⅱ）

## 1、 研修先について

香港城市大学専上学院（2年制）は地下鉄（MTR）九龍塘駅C出口から直結の高級デパート“Festival walk”を通過してキャンパスに入る。香港城市大学（4年制）とは別棟になっており、専上学院のある Academic2 にたどり着くまで10分はかかる。常勤の日本語教師5名と非常勤1名が1年生95名、2年生67名に日本語文法と会話を教えている。九龍塘キャンパスとは別に分校として徳福校舎（Telford キャンパス）が九龍湾にあり（MTR で約12分）、本校の常勤教師3名が兼任し、2名の非常勤講師が1年生46名、2年生34名を教えている。1週間に文法3コマ、会話3コマで1課進み、2年間でテキスト50課まで学習し、N3（またはN2）を目指す。講師陣は1名を除いて日本語ネイティブだが、学習者の日本語理解力を考慮し、文法講義などは英語で行っている。



九龍塘駅から高級デパートを通過して大学へ。振り向くと別世界。

## 2、 実習生への待遇について

事前に手渡されていた予定表では、学生との交流会や歓送迎会など予定されていたが、学校側が多忙のため実際は行われなかった。非常勤講師用のデスク(PC)が準備されており、授業準備などの作業はしやすかった。しかし来客用IDカードなどは用意されておらず、校内の学習スペースに座っていると、学校の警備員に不審者扱いされ、追い出されそうになった。案内役のような学生もおらず、よく言えば自由だが、ほったらかし感は否めない。

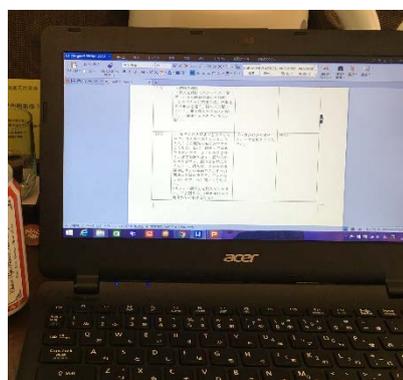


## 3、 授業見学、実習について

本校と分校あわせて30コマ(1コマ50分)の授業見学と、1年生文法復習2コマ、1年生会話3コマと2年生会話1コマの実習を行った。見学で授業内容はもちろん教師のアプローチ法や学生の態度など細かくメモをとり、見学後は担当教師から話しを聞いたり、学生に話しかけたりして実習に役立つ情報を得た。実習1週間前にならないと、どの課が担当になるのか分からず、しかも別々の課が、同じ週の実習となる場合もあったが、教案提出は1年生会話2コマ分だけだったので、併用できた。日本の地元ならいいが、香港で材料を集めるのは至難の業なので、PPTを駆使して実習を行った。



1年生会話 学生のロールプレイ



#### 4、 香港での交通手段

香港国際空港を出てすぐに手に入れるべきなのは、オクトパスカードである。日本のICOCAと同じく、IC 搭乗券、電子マネーだが、使える範囲がICOCAよりもっと広い。現金購入なので、関空で香港ドルに換金しておく必要がある。\$150HK（\$50はデポジット）で\$100分チャージされている。香港のバスは前払い式でおつりが出ないのでオクトパスカードが必需品だ。MTRは割引価格



で利用できる。MTRはかなり便利で、もちろん渋滞がなく、次々に電車が来る。路線さえ間違わなければ、一人でどこへでも行ける優れもので、しかも安い。オクトパスカードは、駅の改札やコンビニなどでチャージできる。払い戻す場合、デポジットから手数料\$9HK取られる。

#### 5、 香港での食生活

イメージ的に食には困らなそうな香港だが、思うようなものが食べられない辛さがある。広東語で書かれたメニューは、よくわからないものが多く、ローカルな店では英語も通じない。店に入るには勇気と覚悟が必要となる。サークルKとセブンイレブンがあるが、キヨスクの半分くらいの大きさで、前を通っても気づかなかつたくらいだ。困ったときは学食で、大学の食堂をよく利用させてもらった。味はともかく、安い。ドルだと分かりにくいのが、日本円にすると驚くほどの値段で、他の店で食べられなくなりそうだった。



朝食：\$16（250円）



昼食：\$27（420円）

人気のアメリカンスタイル。和洋中あり、それぞれ朝昼夕でメニューが変わる。

## 6、 滞在先 (CASA HOTEL)

ホテルは MTR の油麻地 (YauMaTei) 駅 C 出口を出て 1 分、ネイサン通り沿いにあり、移動に便利であった。普通に Wi-Fi が使えたので助かった。お湯を沸かす電気ポットとドライヤーと変還プラグが置いてあったが、冷蔵庫、金庫、洗濯サービスはなかった。部屋がダブルだったので、タオルなどが 2 セット用意されていて助かった。シャワーがトイレの上にある究極に狭いバスルームではあったが、話のネタになるからと自分に言い聞かせて耐え抜いた。部屋自体は、角部屋で案外広かったが、壁が異常に薄いのか、隣の部屋の話し声が聞こえてきて、困ることもあった。



## 7、 観光など

香港は世界各国から観光に訪れるので、週末は特ににぎやかだ。人混みは苦手だが、せっかく香港に来たのだからと週末は観光に出かけた。さすがに夜景は見に行かなかったが、昼間は動き回って香港を満喫した。



TsimShaTsui



SKY100 からの景色

## 8、 終わりに

日本を出発する前に、香港の気象情報などを調べたうえで、衣服を用意していたが、今年の香港は異常気象のようで、かなり寒かった。年中温暖で湿度の高い香港に、暖房機器などなくダウンジャケットが手放せなかった。受け入れ先の大学の学部長が入院中で、親日家の学部長に渡すはずの土産も、学部長代理に渡すことになってしまい、気まずい思いをした。日本で準備していたもの全ての予定が狂ってしまった。手土産に関しても、これは香港にはないだろうと思って用意したが、今時たいして珍しくないようで、普通に香港で売っていた。そのような数々の失敗を、一緒に笑ってくださった先生方のおかげで、4週間乗り切ることができた。授業で習ったばかりの日本語を使おうと、飲茶に誘ってくれた分校1年生の学生たちとの交流は貴重な体験となった。授業見学を通して、教師の在り方について色々考えさせられた。実習を通して、自分の個性を生かした自分らしい授業を見つけ出すことができた。そしてなにより、4週間の香港生活で人間的に強くたくましくなった。



徳福校舎1年生と飲茶



お世話になった高橋先生とツイ学部長代理



注文しすぎた飲茶。最後は罰ゲーム状態に。